

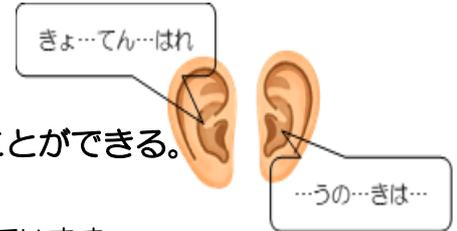
## Q14

「一側性難聴（片耳に難聴がある）と言われたのですが、  
どんな配慮が必要ですか？」

一側性難聴とは、片方の耳の聴力が悪く、聞こえにくいまたは難聴があることを言います。  
人の身体には2つの耳がありますが、2つの耳があることはとても重大な役割を果たしています。

【2つの耳の役割】

- ① 片耳で聞くより、両耳で聞いた方が大きく聞こえる。
- ② 音や声が、どこから聞こえているかわかる。
- ③ 騒がしい場所でも、聞きたい音だけを集中して聞き取ることができる。
- ④ 耳同士が助け合って、聞き漏らしを防ぐことができる。



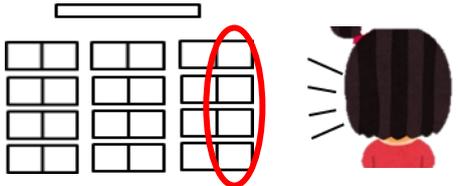
このように、2つの耳があることで人は当たり前前に生活することができています。

しかし、一側性難聴の方は、これが当たり前ではありません。会話をしている中で、聞き取りに問題なく、普通に会話できているように思われてしまいがちですが、様々な困り感を抱いています。

【一側性難聴の主な困りごと】

- ① 聞こえにくい方から話しかけられるとわからない。
- ② 騒がしい場面では聞き取りにくい。
- ③ どこから声や音がしているのかわからない。（危険察知が遅れる）

このような困り感を解消するためにも、お子さんに適した配慮が必要です。

できる配慮	内容
座席	聞こえにくい方の耳を廊下側や壁側にするのが良いと言われています。理由は、聞こえる耳を教室側に向けることで、先生の声やクラスメイトの発言など、教室内の情報が聞き取りやすくなるからです。前側か後ろ側は対象児によって様々です。お子さんとよく相談し、座席の配慮をしましょう。 例：右耳に難聴がある場合 黒板に向かって右側の席にする。 
環境	騒がしい場所での聞き取りが難しい為、静かな空間を作ることが大切です。静かな空間を作れない時は、話す前に合図（肩を叩く、手を振るなど）をしてから話したり、聞こえやすい方向から話しかけたり、状況に応じて筆談を用いて話す事も必要です。
関わり方	話しかけるときは、正面または、聞こえやすい方から話しかけることが大切です。また、遠くから話しかけるのではなく、近づいてから話しかけることも大切です。遠くから声をかける必要があるときは、手を振ったり、大きな身振りをつけたりすると、話している方向や誰が話しているかがわかりやすくなります。 また、音の方向の認識のしにくさから危険の察知が遅れる場合があります。校外に出るときなどは十分に注意し、必要に応じて自転車や車などが近づいていることを教えることも必要です。